

研究 成果 報告 書

(国立情報学研究所の民間助成研究成果概要データベース・登録原稿)

研究テーマ (和文)	日本における持続可能性アセスメントのあり方に関する研究		
研究テーマ (英文)	A Study of Sustainability Assessment in Japan		
研究期間	2022年～2024年	研究機関名 環境アセスメント学会	
研究代表者	氏名	(漢字)	柴田裕希
		(カタカナ)	シバタユウキ
		(英文)	Yuki SHIBATA
	所属機関・職名		東邦大学・准教授
共同研究者 (1名をこえる場合は、別紙追加用紙へ)	氏名	(漢字)	上杉哲郎
		(カタカナ)	ウエスギテツロウ
		(英文)	Tetsuro UESUGI
	所属機関・職名		株式会社日比谷アメニス・取締役

概要 (600字～800字程度にまとめてください。)

近年、環境アセスメントに関して、従来の環境保全の枠を超えて健康や社会への影響、あるいは地域の空間履歴を含む累積的影響を考慮し、事前に評価することでその負の影響を回避するなど、多様な機能が議論されている。本研究は、これら種々の影響を考慮し統合的に意思決定に反映させる仕組みとして、持続可能性アセスメントのあり方を検討することを目的としてきた。本研究では、環境アセスメント学会に「持続可能性アセスメント研究会」を組織し、これまで2年間の研究活動を通じて持続可能性アセスメントに関する国内外の動向や文献を整理するとともに、国内の様々な主体を想定して望ましい持続可能性アセスメント実施のあり方について研究を行ってきた。

2022年9月には、環境アセスメント学会の年次大会シンポジウムにて、「持続可能性アセスメントのあり方に関する議論と日本での検討」と題して講演を行い、これまでの持続可能性アセスメントに関する国内外の理論的な研究や実践の整理を行った。また、2023年9月には同学会年次大会にて特別集会を開催し、本研究の成果について取りまとめた「持続可能性アセスメント導入の手引(案)」を基に、持続可能性アセスメントの概念を整理するとともに、我が国における持続可能性アセスメント実施に向けた具体的な方法について報告を行った。これらの成果は、学術誌「環境アセスメント学会誌」の紙面において掲載されている。加えて、2022年5月には、国際影響評価学会(International Association for Impact Assessment)にて、我が国における持続可能性アセスメントの現状を分析した研究結果を2件の口頭発表で発信した。以上の研究活動の結果について、我が国における持続可能性アセスメントについて、その目的と実施の主体、手順、実施のイメージをとりまとめた「持続可能性アセスメント導入の手引」を作成している。これを用いることで、研究期間終了後も継続して自治体等の関係者に持続可能性アセスメント導入にむけた情報を発信する予定である。

発表文献（この研究を発表した雑誌・図書について記入してください。）						
雑誌	論文課題	持続可能性アセスメントのあり方に関する議論と日本での検討				
	著者名	柴田 裕希	雑誌名	環境アセスメント学会誌		
	ページ	35～39	発行年	2023	巻号	21 巻 1 号
雑誌	論文課題	特別集会 2 「『持続可能性アセスメント導入の手引（案）』について」				
	著者名	柴田 裕希	雑誌名	環境アセスメント学会誌		
	ページ	14～15	発行年	2024	巻号	22 巻 1 号
図書	書名					
	著者名					
	出版社		発行年		総ページ	
図書	書名					
	著者名					
	出版社		発行年		総ページ	

英文抄録（100 語～200 語程度にまとめてください。）

In recent years, there has been considerable discourse on the multifaceted roles of environmental assessment. These discussions extend beyond traditional paradigms of environmental conservation to encompass considerations of impacts on human health, local society, and cumulative effects. This study endeavors to explore optimal methodologies for Sustainability Assessment, serving as a decision-making tool that incorporates these diverse impacts. Within the Japan Society for Environmental Assessment, the Sustainability Assessment Study Group was established for this purpose. Over the past two years, this group has engaged in research activities including a comprehensive review of academic literature on sustainability assessment and exploration of ideal implementation methods.

At the Annual Meetings of the Japan Society for Environmental Assessment in 2022 and 2023, we organized symposium and special session related to Sustainability Assessment in Japan which compiled the results of this research, we summarized the concept of sustainability assessment and reported on the specific method for implementing sustainability assessment in Japan. These results were published in the Journal of the Society. Additionally, in May 2022, at the International Association for Impact Assessment, we delivered two oral presentations on the results of our research, which analyzed the current status of sustainability assessment in Japan. As the final outputs, we developed the "Guide to Introducing Sustainability Assessment," which outlines the purpose, appropriate implementing body, procedure and the image of implementation of sustainability assessment in Japan. By using this, we will continue to provide the information on the introduction of sustainability assessment to the policy makers, such as local governments, even after the end of the research period.

研究代表者名 柴田裕希

共同研究者	氏名	(漢字)	浦郷昭子	
		(カタカナ)	ウラゴウアキコ	
		(英文)	Akiko URAGO	
	所属機関・職名		有限会社レイヴン・コンサルタント	
	氏名	(漢字)	傘木宏夫	
		(カタカナ)	カサキヒロオ	
		(英文)	Hiroo KASAGI	
	所属機関・職名		NPO地域づくり工房・代表理事	
	氏名	(漢字)	山本芳華	
		(カタカナ)	ヤマモトヨシカ	
		(英文)	Yoshika YAMAMOTO	
	所属機関・職名		平安女学院大学・教授	
	氏名	(漢字)		
		(カタカナ)		
		(英文)		
	所属機関・職名			
	氏名	(漢字)		
		(カタカナ)		
		(英文)		
	所属機関・職名			
	氏名	(漢字)		
		(カタカナ)		
		(英文)		
	所属機関・職名			
氏名	(漢字)			
	(カタカナ)			
	(英文)			
所属機関・職名				
氏名	(漢字)			
	(カタカナ)			
	(英文)			
所属機関・職名				